

7. 表示基準

公共サインの表示情報は、文字、図、記号、色彩など様々な内容で構成されます。そのため、ユニバーサルデザインに配慮した表示内容とし、その基準を次のとおりとします。

(1) 表記

日本語	原則として国文法、現代かなづかいを用いる。（固有名詞は除く）
ローマ字	下表に示すヘボン式を用いる。施設名称など普通名詞は正式英訳による。
数字	原則として算用数字を用いる。（固有名詞は除く）

ヘボン式表記法

a	i	u	e	o
ka	ki	ku	ke	ko
sa	shi	su	se	so
ta	chi	tsu	te	to
na	ni	nu	ne	no
ha	hi	fu	he	ho
ma	mi	mu	me	mo
ya	-	yu	-	yo
ra	ri	ru	re	ro
wa	-	-	-	-
n	-	-	-	-
ga	gi	gu	ge	go
za	ji	zu	ze	zo
da	ji	zu	de	do
ba	bi	bu	be	bo
pa	pi	pu	pe	po
kya	-	kyu	-	kyo
sha	-	shu	-	sho
cha	-	chu	-	cho
nya	-	nyu	-	nyo
hya	-	hyu	-	hyo
mya	-	myu	-	myo
rya	-	ryu	-	ryo
gya	-	gyu	-	gyo
ja	-	ju	-	jo
bya	-	byu	-	byo
pya	-	pyu	-	pyo

〔備考〕

- (1) はねる音、「ン」はnであらわすが、但し、m・b・pの前では、mを用いる。
- (2) はねる音をあらわすnと次にくる母音字またはyと切り離す必要のある場合は、nの次にー（ハイフオン）を入れる。
- (3) 母音字が重なって、切り離す必要のある場合には、母音字間にーを入れる
- (4) つまる音は、次にくる最初の子音字を重ねておらわすが、但し、次にchが続く場合には、cを重ねずにtを用いる。

(2) 多言語表記

公共サインに多言語表記をする場合は、日本語と英語の2国語表記を基本とします。また、地名や名称など読みにくい漢字にはふりがなを付記するなど配慮しましょう。

文字組み

h：上下をつらぬく形態の漢字の高さ



岸和田市サインデザインマニュアル

(3) 書体とサイズ

公共サインに使用する文字の書体は、読みやすく、わかりやすい情報伝達を行うため、次の書体を基本とします。

1) 書体

公共サインに使用する文字の書体は、読みやすく、わかりやすい情報伝達を行うため、次の書体を基本とします。

【和文書体】角ゴシック体（UD新ゴなど）

【欧文書体・数字】サンセリフ系書体（縦線横線の太さがほぼ均等）

2) サイズ

文字の大きさや文字数は、視認距離を考慮して設定します。

視認距離	和文文字高 (cm以上)	欧文文字高 (cm以上)
100m	40	30
50m	20	15
20m	8	6
10m	4	3
5m	2	1.5
1m	0.9	0.7

交通エコロジー・モビリティ財団「文字サインに関する基礎調査報告書」

(4) ピクトグラム

公共サインは、ユニバーサルデザインを考慮し、視覚言語として直感的に情報が伝わるようピクトグラムを積極的に使用します。特に、車両等の運転者などについては、文字は多くても 15 文字程度とし、ピクトグラムを活用します。

なお、使用するピクトグラムは、原則として JIS 案内用図記号や、市オリジナルピクトグラムとします。

標準案内用図記号（例）



オリジナルピクトグラム（例）



(5) 色彩

サインに使用する色彩は、視認性を確保するためベース色と文字色とのコントラストが重要であり、明度差を確保した配色とする必要があります。

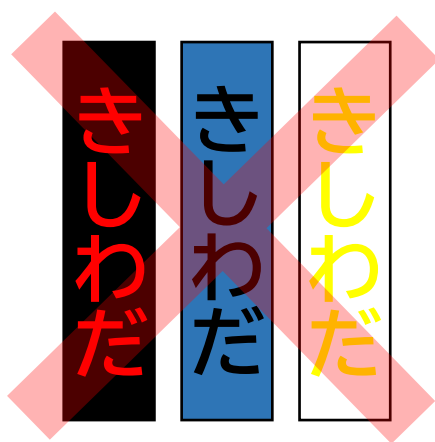


西宮市公共サインデザインマニュアル

また、高齢者および色弱者の方等に配慮して、見分けにくい色の組み合わせや、彩度の低い色同士、鮮やかな蛍光色同士の組み合わせを避けるなど、カラーユニバーサルデザインに配慮することが望ましいと考えます。

×の例：黒×赤、青×黒、白×黄

○の例：黒×白、青×白、白×黒



(6) 素材

公共サインを設置する場合、メンテナンスの観点から屋外で年月が経過しても劣化しにくく、素材の美しさを保つ事ができるものを使用します。

- 板面についてはアルミ板やアルミ複合板を基本とする。
- 木材等を使用する場合は防腐処理を施す。
- 印刷面は貼り替えなどのメンテナンスを考慮して、インクジェットシートを基本とする。
- 低コストの赤色は退色しやすいので注意が必要。
- 広告板の方位や設置角度によっては、太陽光が反射することがあるため素材や配置に注意が必要。

(7) メンテナンス

公共サインは定期的に清掃及び点検を行い、破損、腐食、表示面の劣化（退色等）が生じないように適切な修繕等の措置または撤去を行います。

	サインの種別	寿命	耐用年数
構造体 (常設)	金属	30年	20年
	その他	15年	10年
構造体 (仮設)	立看板・置看板	5年	3年
	のぼり旗・バナー	1年	—
表示面	塩ビシート	10年	—
	インクジェット印刷	10年	—

※ 寿命は、適切なメンテナンスを行った場合に一般的な目安です。

日本サインデザイン協会